令和５年度　第１学期始業式　式辞

今日は皆さんに、大きく２つの話をします。

一つ目の話は、私が実際に体験した面接についてです。今後の皆さんの高校生活に少しでも参考になればと思います。

私は、昭和６１年に教員採用試験を受けました。教員採用試験では、筆記試験と小論文そして面接試験がありました。その面接試験で、「高校時代に頑張ったことを話してください」と質問されました。皆さんだったらなんと答えますか。

高校時代、部活動に入っておらず、特に実績のない私でしたが、予想していた質問なので、次のように答えました。それは、懸垂の話です。鉄棒にぶら下がり、腕の力で、首から上を鉄棒の上に持ち上げる。あの懸垂です。

私が高校１年生の４月、体力測定があり、その種目に懸垂がありました。鉄棒にぶら下がり、私は、懸垂をしようとしましたが、１回もできませんでした。それまで、懸垂のための筋トレなどしたことがなかったので、当然といえば当然です。

しかし、私は、とても悔しかった。友達から笑われたのが悔しかったのではなく、懸垂が１回もできなかった自分がとても悔しかったのです。そして来年４月の体力測定で、こんな思いはしたくないと思いました。

それで、何をしたかというと、家にぶら下がり健康器がありました。そのぶらさがり健康器を用いて、夜、寝る前に、懸垂をしてから寝るようにしました。わずか３０秒くらいの取り組みです。

４月は１回、５月は２回と、月に１回ずつ増やしていこうと計画しました。夜寝る前の、毎日たった３０秒くらいの取り組みですが、半年後は、月に２回ずつ増やすことができました。高校１年生の４月には懸垂が１回もできなかった私ですが、１年後、高校２年生４月には、懸垂が２０回できるようになっていました。その成績はクラスで２番だったことを覚えています。

私は、面接官にそのことを説明し、小さなことでも、継続することで力がつき、自信をもつことができる。継続は力なりという言葉を、自ら実践しました。これが私の高校時代の頑張った思い出ですと、答えました。その答えがよかったのかどうかわかりませんが、無事に教員採用試験に合格し、今、こうして、校長として皆さんに話をしています。

私が皆さんに伝えたいのは、どうぞこれからの高校生活で、何でもいいです。わずかな時間でもいいですから、継続して、自分の課題に取り組んでみてください。知らない間に力がつきますし、何より自分に自信がもてます。

例えば、毎日５分間は資格の勉強をする。筋トレをする。どうぞ、続けることを目標に取り組んでください。１年後は、きっと今の自分とは違う成長した自分になっていることと思います。

以上が、一つ目の話、私の面接の話です。

２つめの話は、今年度、令和５年度を過ごすに当たり、日々の心構えを、皆さんにお願いします。
それは、「自らに問う」という心構えです。
皆さんは、青春時代のまっただ中にあり、色々な希望、憧れ、また悩みもあろうかと思います。
どうぞ、それらの気持ちと素直に向き合い、このままでいいのか、どうすればもっとよりよくなるのか、と、「自らに問う」姿勢を持ってください。
「自らに問う」この心構えを持って日々を過ごすことをお願いします。

以上、「私の面接の話」、そして「自らに問う、心構えの話」をもちましてして、令和５年度１学期始業式の式辞といたします。